

## カリキュラム・マップ

## 異文化コミュニケーション学部の教育目的

変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

## 学修成果

「学士(異文化コミュニケーション学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。※各項目の()内は全学の学修成果項目との関係性を記載

- ① 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「6. 表現力」と関連)
- ② 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。(主に、「3. 自己を理解し発展させる力」「5. 他者を理解する姿勢」「6. 表現力」と関連)
- ③ グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語、ロシア語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力をもち、実社会のコミュニケーションに対応できる。(主に「6. 表現力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)
- ④ 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。(主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「2. 専門性」「9. 社会的実践力」と関連)
- ⑤ 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。(主に「3. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」、その他「9. 社会的実践力」と関連)
- ⑥ 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。(主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)
- ⑦ 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。(主に「9. 社会的実践力」、その他「3. 自己を理解し発展させる力」「7. リーダーシップ」と関連)
- ⑧ 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。(主に「5. 他者を理解する姿勢」、その他「1. リベラルアーツの素養」「4. キャリア展望を確立する力」「8. 国際性」「9. 社会的実践力」と関連)

異文化コミュニケーション学部  
異文化コミュニケーション学科のカリキュラム異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連  
(◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
異文化コミュニケーション研究入門 Overview of Intercultural Communication Studies	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、異文化コミュニケーションの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			○		◎		◎
言語・コミュニケーション研究入門 Overview of Language and Communication	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、言語・コミュニケーションの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			○		◎		◎
グローバル研究入門 Overview of Global Studies	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、グローバル・スタディーズの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			△		◎		◎
基礎演習A Academic Skills A	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を身につけ、論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△				○
基礎演習B Academic Skills B	必修科目	1	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を深化させ、データや論拠を用いながら自らの論を展開したレポートを作成することができる。また、他者と共に調べ、話し合い、学ぶことにより学びの対象への理解を深めるとともに、その成果を論理的かつ効果的に発表することができる。	◎	◎		△				○
Cultural Exchange	必修科目	2	多様な国からの学生と共同学習を実施することにより、多様な文化的知識を身につけ、異なる文化に対して理解し、受容することができる。実践的な異文化コミュニケーション対応能力を修得し、自ら使うことができる。	○	◎		○	○	△		◎
College Life Planning A	選択科目 基盤科目	1~4	本学部での学びの礎を築くため、キャリアプラン・留学などの取組みについて理解し、それを留学計画やキャリアプランを立てる際に活かすことができる。また、それらの取組みを4年間の学びの中に位置づけ、学部での学びを自らデザインすることができる。	○	○					◎	
College Life Planning B	選択科目 基盤科目	1~4	本学部での学びの礎を築くため、キャリアプラン・留学などの取組みについて理解を深め、それを使うことができる。また、それらの取組みを4年間の学びの中に位置づけ、卒業後の人生にどう結び付けていくかを考えることができる。	○	○					◎	
コミュニケーションセミナー1 (ドイツ語)	選択科目 基盤科目	1~4	ドイツ語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1 (フランス語)	選択科目 基盤科目	1~4	フランス語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1 (スペイン語)	選択科目 基盤科目	1~4	スペイン語語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1 (中国語)	選択科目 基盤科目	1~4	中国語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1 (朝鮮語)	選択科目 基盤科目	1~4	朝鮮語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー1 (ロシア語)	選択科目 基盤科目	1~4	ロシア語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。	○	○	◎	△				○
コミュニケーションセミナー2 (ドイツ語)	選択科目 基盤科目	1~4	ドイツ語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をより発展的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△				○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
コミュニケーションセミナー2 (フランス語)	選択科目 基盤科目	1~4	フランス語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をより発展的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー2 (スペイン語)	選択科目 基盤科目	1~4	スペイン語語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をより発展的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー2 (中国語)	選択科目 基盤科目	1~4	中国語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をより発展的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー2 (朝鮮語)	選択科目 基盤科目	1~4	朝鮮語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をより発展的なレベルで運用できるようになる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー2 (ロシア語)	選択科目 基盤科目	1~4	ロシア語の特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をより発展的なレベルで運用できることを目指す。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー3B-R(ドイツ語)	選択科目 基盤科目	2~4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー3B-R(フランス語)	選択科目 基盤科目	2~4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー3B-R(スペイン語)	選択科目 基盤科目	2~4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー3B-R(中国語)	選択科目 基盤科目	2~4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー3B-R(朝鮮語)	選択科目 基盤科目	2~4	主に留学準備を目的とし、継続的に中級レベルの文法、表現、語彙を学習し、それを使うことができる。	○	○	◎	△					○
コミュニケーションセミナー3A-R(英語)	選択科目 基盤科目	2~4	英語圏の文化や思考法について学び、それを説明し、受容することができる。英語を通して他者の考えを理解し、英語で論理的に自らの意志を伝えることができる。英語コミュニケーションの様々な状況において、英語を適切に使用することができる。	◎	◎	◎						○
Seminar in English A	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English B	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English C	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English D	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English E	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English F	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English G	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
Seminar in English H	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○		○
ドイツ語Lecture A	選択科目 基盤科目	1~4	ドイツ語を通してドイツ語圏の地域、社会、文化等を理解し、ドイツ語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎			○		◎
ドイツ語Lecture B	選択科目 基盤科目	1~4	ドイツ語を通してドイツ語圏の地域、社会、文化等を理解し、ドイツ語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎			○		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
フランス語Lecture A	選択科目 基盤科目	1~4	フランス語を通してフランス語圏の地域、社会、文化等を理解し、フランス語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
フランス語Lecture B	選択科目 基盤科目	1~4	フランス語を通してフランス語圏の地域、社会、文化等を理解し、フランス語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
スペイン語Lecture A	選択科目 基盤科目	1~4	スペイン語を通してスペイン語圏の地域、社会、文化等を理解し、スペイン語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
スペイン語Lecture B	選択科目 基盤科目	1~4	スペイン語を通してスペイン語圏の地域、社会、文化等を理解し、スペイン語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
中国語Lecture A	選択科目 基盤科目	1~4	中国語を通して中国語圏の地域、社会、文化等を理解し、中国語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
中国語Lecture B	選択科目 基盤科目	1~4	中国語を通して中国語圏の地域、社会、文化等を理解し、中国語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
朝鮮語Lecture A	選択科目 基盤科目	1~4	朝鮮語を通して朝鮮語圏の地域、社会、文化等を理解し、朝鮮語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
朝鮮語Lecture B	選択科目 基盤科目	1~4	朝鮮語を通して朝鮮語圏の地域、社会、文化等を理解し、朝鮮語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎		○		◎
日本語コミュニケーションA	選択科目 基盤科目	1~4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションB	選択科目 基盤科目	1~4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションC	選択科目 基盤科目	1~4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
日本語コミュニケーションD	選択科目 基盤科目	1~4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎	◎		○			
ビジネス日本語コミュニケーション演習	選択科目 基盤科目	3~4	敬語を含む待遇表現や電話応対など、ビジネス場面で必要とされる日本語スキルを修得し、自ら使うことができる。場面に応じた適切な日本語使用の必要性、重要性について認識し、日本語を適切に使用することができる。	◎	◎			○		○	
キャリア実践演習A	選択科目 基盤科目	2~4	日本の就職活動への理解を深め、必要な準備について学習することで、卒業後のキャリア目標を設定できる。講義・個人ワーク・グループワークを通じて、「目指したい自分」や「働きたい企業」を見つけることができる。	◎	◎	△		○		○	○
キャリア実践演習B	選択科目 基盤科目	2~4	日本の就職活動で求められるスキルを実践を通して身につけることができる。エントリーシートの書き方、集団、個人面接のスキル、筆記試験についての対策などを行うことができる。	◎	◎	△		○		○	○
諸言語特別演習A	選択科目 基盤科目	2~4	異文化コミュニケーション学部で常に学ぶことができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
諸言語特別演習B	選択科目 基盤科目	2~4	異文化コミュニケーション学部で常に学ぶことができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
サービスマーケティングA	選択科目 基盤科目	1~4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービスマーケティングB	選択科目 基盤科目	1~4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を年間にわたり実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービスマーケティングC	選択科目 基盤科目	1~4	多様な国からの学生と共に地域連携活動として行っている豊島区内の小中学生対象の英語活動を通して、自己のコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒の年齢や学習段階等を考慮に入れた言語活動、また、異文化コミュニケーションの実践の場としての活動を企画、体験し、理論と実践を結び付けることができる。	○	◎	◎	◎	○	△	◎	◎
海外フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1~4	海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国が抱える社会問題などを体験を通じて理解し、受容することができる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通じ、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				△	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とのよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
海外フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	1~4	海外のフィールドにおいて、自らの専門性を土台にしながら社会の諸問題に実践的に取り組むことを通して、ある課題の解決/改善に取り組むプロセスを組み立て実行できるようになる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
国内フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1~4	国内のフィールドにおいて、困難な状況を生き生きと乗り越える共感力を培うことができる。国際協力の課題を海外の他者の課題として考えるのではなく、日本の課題と海外の課題のつながりとして理解することができる。	○	◎				◎	◎	◎
国内フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	1~4	国際協力の課題を一時的な支援として解決するのではなく、双方向に協力して解決する思考を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
海外日本語教育実践	選択科目 基盤科目	1~4	Zoomを利用したオンラインによる日本語教育実習を行い、海外における日本語教育の現場への理解を深めると同時に、「オンラインによる日本語指導、学習者対応についての事前学習⇒実際の学生に指導⇒振り返り」を行うことで、実践的教授スキルを身につけることができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
海外日本語教育インターンシップ	選択科目 基盤科目	3・4	海外の大学をフィールドにした日本語教育実習を行い、海外における日本語教育の現場への理解を深めると同時に、授業、教材作成を行ったうえで、実際の学生に授業を行い、振り返りを行うことで、実践的な日本語教育を行う力を身につけることができるようになる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
キャリア形成実習	選択科目 基盤科目	1・2	企業やNGO、公的機関において、実務の中で自らの知識やスキルを実践的に用いる経験を通して、キャリア形成に必要な基礎知識や心構え、職業観を養うことができる。	◎	◎	△				◎	
インターンシップ	選択科目 基盤科目	1~4	企業やNGO、公的機関において、実務の中で自らの知識やスキルを実践的に用いる経験を通して、社会人・職業人としての基礎知識や心構えを身につけることができる。さらに、自らの職業適性や将来の職業選択について具体的に考える機会を持ち、それを自らの卒業後の進路決定に役立てることができる。	◎	◎	△					
海外留学研修A	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修B	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修C1	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
海外留学研修C2	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じることができる。		◎	◎				◎	○
Study Abroad in Asia A	選択科目 基盤科目	2・3・4	ソウル大学校自由専攻学部、北京大学元培学院、シンガポール国立大学ユニバーシティ・スカラース・プログラムと共同運営するプログラムへの参加を通して、グローバル社会における諸問題を幅広い視点に立って捉え、多角的に考え、他者と協働しながら解決する力を身につけることができる。		◎	◎				◎	○
Study Abroad in Asia B	選択科目 基盤科目	2・3・4	ソウル大学校自由専攻学部、北京大学元培学院、シンガポール国立大学ユニバーシティ・スカラース・プログラムと共同運営するプログラムへの参加を通して、グローバル社会における諸問題を幅広い視点に立って捉え、多角的に考え、他者と協働しながら解決する力を身につけることができる。		◎	◎				◎	○
留学、学びのデザイン、キャリア	選択科目 基盤科目	3・4	海外の大学における学び、現地での生活、帰国後の再適応の振り返りを通して、留学経験を内省し、自身の変化や成長を実感できるようになる。また、海外留学体験と学部での学びをより意識的に結びつけることで、残りの学生生活の過ごし方、大学で追求したい専門的な学び、卒業後の進路について具体的なイメージを持ち、実践できるようになる。		◎	△			△	○	○
Japan Studies Program A	選択科目 基盤科目	1~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△			○	◎	
Japan Studies Program B	選択科目 基盤科目	1~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△			○	◎	
Japan Studies Program C	選択科目 基盤科目	1~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△			○	◎	
Japan Studies Program D	選択科目 基盤科目	1~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△			○	◎	
Japan Studies Program E	選択科目 基盤科目	1~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△			○	◎	
Japan Studies Program F	選択科目 基盤科目	1~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見ることができるようになる。	○	○	△			○	◎	
言語研究調査法	選択科目 基盤/専門科目	2~4	言語研究を行う際に必要となるツールや、調査・実験の計画方法、データの処理や分析方法などについて学び、自らの調査や研究に応用することができる。質的分析・量的分析の特徴を理解し、言語の諸現象について論理的に説明することができる。	◎	△		○			○	

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
異文化トレーニング演習	選択科目 基盤/専門科目	2~4	文化背景を異にする人々が円滑にコミュニケーションを行うために開発された異文化研修プログラムの体験学習を通して、異文化コミュニケーション能力を養い、あわせて異文化トレーニングプログラムの計画や実践の基礎的能力を身につけ、それを自ら使用することができる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション研究調査法	選択科目 基盤/専門科目	2~4	多様なアプローチからのコミュニケーション研究方法論の基本的な考え方や、強みと限界について説明することができる。さらに、卒業研究のテーマに適切な研究方法を選び、それにしたがって研究を進めることができるようになる。	◎	△	△	△	△	◎	○	△
フィールドワーク	選択科目 基盤/専門科目	2~4	対象となる人々の生活に参加しつつ他者の「ものの見方」を理解しようとするという、独特の研究手法であるフィールドワークについての基本的知識を獲得するとともに、その方法を実習を通して理解し、自分の研究に活用できるようになる。	○	◎				◎	◎	○
言語学概論 Introduction to Linguistics	選択科目 基礎科目	1~4	言語の構造と機能に関する基礎知識を持ち、身近な言語現象に関して言語学的な観点から説明することができる。言語の多様性について理解し、母語や学習している言語、その他様々な言語の特徴を対比してその違いと共通点について考えることができる。	◎	○						
英語学概論 Introduction to the Study of English	選択科目 基礎科目	1~4	英語の仕組みと運用の諸相について、日本語と対比することができる。英語コミュニケーションの理解を深め、自ら使うことができる。特に世界語としての英語のバリエーションについて学び、分析することができる。異文化・異言語の人々とのコミュニケーションをはかるために必要な英語力について認識を高め、それを自ら使用することができる。また、授業内レポートや課題図書レポートのディスカッションやプレゼンテーションを通して、内容を批判的に考察し、意見を述べることができる。	◎	◎	○	○		○		○
日本語学概論A	選択科目 基礎科目	1~4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。音声、音韻、文法など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○					○	○
日本語学概論B	選択科目 基礎科目	1~4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。語彙、文字表記、語用論的規範など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○					○	○
通訳翻訳学概論 Introduction to Translation and Interpreting Studies	選択科目 基礎科目	1~4	異言語・異文化間コミュニケーションにおける仲介行為としての通訳翻訳という視点から、現代社会における通訳翻訳のさまざまな実践状況および主要な課題について理解し、説明することができる。通訳翻訳研究における基本的な用語と概念を理解し、説明することができる。	△				○	△	○	○
コミュニケーション研究概論 Introduction to Communication	選択科目 基礎科目	1~4	コミュニケーションにかんする基礎的な理論およびモデルを理解し、説明することができる。同時に、コミュニケーション学と隣接分野との共通点や相違点を理解し、説明することができる。日常的に行っているコミュニケーションを以前とは異なった視点で観察したり、より自覚的にコミュニケーションに向き合えるようになる。	○	○				◎		◎
異文化コミュニケーション概論 Introduction to Intercultural Communication	選択科目 基礎科目	2~4	(異)文化の概念を単なる国民国家の枠組みで捉えることなく、「我々」と「彼ら」の境界線はどのような文脈で立ち上がってくるのかという視点で、多角的に異文化コミュニケーションの諸相を説明することができる。言語と非言語、コミュニケーション実践と意味付け、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応などをテーマに、異文化コミュニケーションの基本概念や理論について理解し、説明することができる。	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
メディアコミュニケーション概論 Introduction to Media Communication	選択科目 基礎科目	1~4	マスメディアやソーシャルメディアなど様々なメディアを媒介としたコミュニケーションの特徴を理解し、説明することができる。現代社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションの役割や可能性について多角的視点から考察できるようになる。自らもメディア(とりわけソーシャル・メディア)の参加者の一人としてメディアにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	◎				◎	○	○
国際協力・開発学概論 Introduction to International Development and Cooperation	選択科目 基礎科目	1~4	国際協力の基本的な考え方と方法、および日本が国際協力を展開するようになった経緯を理解することができる。身近なことから国際協力が実践できることを発見し、学生として何が出来るかを具体的に考えることができる。	○	○				◎	○	○
文化人類学概論 Introduction to Cultural Anthropology	選択科目 基礎科目	1~4	人間の文化についての総合的学問である文化人類学の基本的知識を獲得し、その目的と意図を理解し、説明することができる。また、文化人類学的な思考法を身につけ、周囲の社会現象を把握する際に活用することができる。	○	◎		△	△	◎	○	◎
カルチュラル・スタディーズ概論 Introduction to Cultural Studies	選択科目 基礎科目	1~4	様々な文化的表現(文学、音楽、メディア等)がどのように社会と結びついているかを考えようとする学際的な領域であるカルチュラル・スタディーズについて基本的理解を獲得し、説明することができるようになる。また、周囲に存在する様々な文化的表現を社会的な問題と結び付けて把握することができるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化とジェンダー Globalization and Gender	選択科目 基礎科目	1~4	グローバル化している現代社会における新たなジェンダーの概念と男女関係の変化、そして、「フェミニズム」という社会運動を多文化主義の観点から理解し、説明することができる。グローバル文化やメディア・テキストが生産、拡大、正当化する性差別と偏見、またはグローバル化によって瓦解する伝統的なジェンダー規範と役割、性抑圧的な人間関係を社会的・歴史的背景とともに分析することができる。	○	○		○		◎		◎
国際協力・紛争研究概論	選択科目 基礎科目	1~4	国際紛争、地域紛争を理解するための基本的な概念と基礎知識を獲得することができる。武力紛争により困難な状況を生きている人びとに対する共感力を身につける。	○	○				◎	○	○
人間環境概論	選択科目 基礎科目	1~4	現代世界が抱える環境、文化、人権、ジェンダーなどをめぐる諸問題を理解した上で、未来に向けて、人間と周囲の自然環境、人間と人間の関係の持続可能なあり方を探るための考察力や問題解決能力を身につけることができる。	○					○	○	◎
多文化共生概論	選択科目 基礎科目	1~4	日本における多文化共生の実践例を学ぶ。多文化共生の実践現場における現状を課題を知ることにより、具体的に解決策を模索できるようになる。多様な背景をもつ他者とどのように共存できるかについて考察を深める。		○		○	○	○	○	◎
グローバル化と宗教	選択科目 基礎科目	1~4	宗教・信仰が人々の生活とどのように結びついているかを学び、それを踏まえて文化圏を超えて広がった宗教が、各地に根付く過程で経た変容と、受容側の社会、生活、文化に与えた影響について考察し、説明できる。また、グローバル社会における宗教のあり方について、具体的な事例の分析を通じ、自分の考えを述べることができる。	○	◎		△		△	△	◎
視覚芸術概論	選択科目 基礎科目	1~4	美術、舞台芸術、映像等の視覚に関わる幅広い芸術の諸領域を対象とする。さまざまな時代・作家・作品について、その表現の特性や固有性知り、歴史的・社会的・文化的背景等を考慮しながら分析することができる。また、多角的な視点から自分の考えを述べるすることができる。	◎	△	○	△			○	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
音楽学概論	選択科目 基礎科目	1~4	音楽の歴史の変遷を学び、社会的・思想的・文化的関わりを多角的に考察する。音楽がなぜ音楽としてなりたつのか、人は何を音楽と認識するのか、多様な解釈を学び、自ら考える力を修得する。	◎	○	△	△			○	◎
コンピュータ・リテラシー	選択科目 基礎科目	1~4	言語教育および言語研究に必要なコンピュータ・スキルを学び、使うことができる。具体的には、基本的なソフトウェアが使いこなせるようになるとともに、学生管理や教材開発、データの分析などに必要なソフトウェアの使い方、その知識を身に付け、実際に必要な場面で活用できるようになる。	△						○	○
心理言語学	選択科目 専門科目	2~4	Students will examine and be able to explain the study of how humans comprehend, represent, and acquire language. Students will analyze and be able to illustrate the cognitive, social, and neural processes involved in language use.	○	○						△
社会言語学	選択科目 専門科目	2~4	ことばと文化・社会の関係について学ぶ。文化の違いによる言語運用の特徴、社会変化による言語変化、話者の社会化による言語発達、話者の属性や場面による言語運用の多様性などについて、言語実態や言語意識の調査・分析を学び、ことばの働きに対する洞察力を養い、身近な言語現象を社会言語学的視点で考察することができるようになる。	◎	○	△	○	○	○	◎	◎
認知言語学	選択科目 専門科目	3~4	人間が事象をどのように意味づけ、切り取り、環境世界を構築してゆくかという認知プロセスは、ことばに何らかの形で反映されているというを理解する。我々が世界をどのように分類し、概念化するかの仕組みを、ことばの中に表れるメタファー、プロトタイプ、図と地、視点、構文等の現象を手がかりに分析し、語るすることができる。	◎	○						
語用論	選択科目 専門科目	2~4	言語使用の認知的・社会的・文化的側面についてより深く理解し、説明することができる。場面に応じた適切な言語使用とは何かについて考察し、言語コミュニケーションの意義を認識し、自ら事象にあてはめ分析することができる。	◎	◎	○	○			○	○
文化記号論	選択科目 専門科目	2~4	記号論的な視点を学びながら、様々な文化現象を記号とみなす試みを考察し、記号とは何か、意味とは何か、文化とは何か、といった問題を検討することによって、論理的・批判的思考能力を養い、自らそれらを使用して意見を述べることができる。	◎	○					○	○
第1言語習得理論	選択科目 専門科目	2~4	主に発達心理学、言語心理学、認知言語学、認知心理学、生成文法などの分野の、言語の獲得にかかわる基本的理論を理解し、説明することができる。人間が第一言語を習得する過程を、音声、語彙、統語、コミュニケーションなど各側面について理解し、実際のデータを用いて分析することができる。	◎		△	○	○		○	△
第2言語習得理論	選択科目 専門科目	2~4	第2言語習得のメカニズムについて理解し、述べるができる。第2言語習得の理論構築の歴史を概観しながら代表的な理論やモデルについて説明することができる。さらに、最新の第2言語習得研究の動向を常に意識し、それらの内容について正確に理解し、自らの研究へと発展させることができる。	◎	○					○	
バイリンガリズム研究	選択科目 専門科目	2~4	バイリンガリズム(二言語併用)について、言語学・心理学的視点および教育学的視点から理解することができる。二言語併用者の言語能力、言語習得ならびに言語使用の特徴、知能や思考・認知能力、バイリンガル教育の種類や方法、効果などについて理解し、具体的事例を挙げながら説明することができる。	◎	○	△	◎	◎	○	○	○
英語教育学	選択科目 専門科目	2~4	そもそも英語とはどのような言語なのか、なぜ世界の共通語になったのか、日本人は歴史的に英語とどのように接して来たのか、世界にはどのような英語教授法があるのか、日本にとって英語はどのような言語であり、戦後はどのようにして教えられてきたのか、ヨーロッパではどのようにして英語を教えているのか、日本の英語教育の問題点は何か、今後の日本の英語教育はどのように変わるのか、など根源的な事柄について理解できる。			○	◎	○		○	◎
英語コミュニケーション教育学	選択科目 専門科目	2~4	英語によるコミュニケーションを想定した多面的な言語活動のための教授法を理解・習得して授業に活かすことができる。英語クラスにおけるコミュニケーション活動練習のための授業案を書き、それに基づいて授業の準備をし、実際に教えることができる。	◎	◎		◎		◎	◎	◎
英語科教育研究	選択科目 専門科目	3~4	英語教育はどのような学問領域から成り立っているのか、英語はこれまでどのように教えられてきたのか、コミュニケーション中心の教え方とはどのようなものなのか、今後日本では英語をどう教えるべきか、教員の役割とは何か、学習者はどう学習しているのか、語彙や文法とは何か、どう教えるべきか、教材はどのようにして作られているのか、どのように教科書で英語を教えればよいのか、などが理解でき、実践できるようになる。				◎	○		◎	○
外国語教育評価論	選択科目 専門科目	2~4	言語テストの種類、測定方法、測定尺度、テストの信頼性と妥当性などを理解し、説明することができる。得られたデータを分析・解釈する手法を身につけ、それを自ら使うことができる。	○	△			○			○
日本語学特論	選択科目 専門科目	3~4	外国語、第2言語、継承語としての日本語を巡る様々なトピックを学ぶことにより、日本語を母語としない人々に日本語を教える際に役立つ知識を身につけ、それを実際の教育に用いることができる。	○	○			○	○	○	○
日本語教授法A	選択科目 専門科目	2~4	母語ではなく1つの言語としての日本語の諸特性を理解し、説明することができる。日本語を母語としない人に日本語をどう効果的に教えるかを理解し、具体的に述べるができる。教材分析、教授法の比較、教案作成、問題作成などを行うことができる。	○	○		◎	◎		◎	○
日本語教授法B	選択科目 専門科目	3~4	外国語として日本語を教える現場にはどのような課題が存在するのかについて学び、実践的にその課題に取り組み、問題を解決していく方法を知り、それが使えるようになる。多様な学習者のニーズに対応する方法やストラテジーについて学び、実際に支援ができる。言語政策の観点から日本語教育について考えることができる。	○	○		◎	◎		◎	○
日本語教育実習	選択科目 専門科目	3~4	具体的な学生のレベルを想定し、教材作成、教案作成をすることができる。学生間での模擬授業を経て、最終的には実際の学生に授業を行い、その結果を相互で評価し、個々人の教授スキルを改善することができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
コミュニケーション文法	選択科目 専門科目	2~4	英語における各種文法構造が、実際のコミュニケーションの場面(フォーマルvsインフォーマル、書き言葉vs話し言葉等)や変種においてどのように異なるかについて語用論的、社会言語学的、文法論的観点から理解できる。自然発話や書き言葉コーパス等のデータの分析に基づき、その変化や違いについて理論的に説明できる。	◎	◎	○	○		○	○	○
言語研究特論	選択科目 専門科目	2~4	言語学で学んだことなどを発展させながら、言語哲学や神経心理学・失語症研究といった分野で論じられている様々なトピックの議論を通じて、言葉・心・脳の関係について考察する。	◎	○			△		○	△

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
通訳入門	選択科目 専門科目	2~4	アクティブリスニング、パブリックスピーキング、ノートテイキングなしの通訳、ノートテイキングに関する初歩的なスキルを習得し、簡単なスピーチを逐次通訳することができる。通訳学の基本的な概念や理論を理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
逐次通訳	選択科目 専門科目	2~4	ノートテイキングをもとに一般的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。やや専門的なスピーチの通訳の準備を効果的・効率的に行うことができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、自律的な通訳練習が行える。	△		◎		◎	△	○	◎
同時通訳入門	選択科目 専門科目	3~4	準備をもとに、専門的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。同時通訳における基本的方略を学び、準備をもとに、一般的な内容のスピーチを同時通訳することができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの通訳パフォーマンスの評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳入門	選択科目 専門科目	2~4	翻訳学の基本的な用語、概念、理論を理解し、説明できる。一般的な内容のテキストを分析し、コミュニケーションの目的に合わせた方法に基づき、目標言語に翻訳することができる。基本的な翻訳ツールの使用法について理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践1	選択科目 専門科目	2~4	ビジネス翻訳、字幕翻訳、ニュース翻訳など特定専門領域の翻訳実習を通して、各領域に必要な知識やスキルについて理解し、説明できる。基本的な翻訳ツールを使用できる。翻訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの翻訳の評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践2	選択科目 専門科目	3~4	技術翻訳など特定専門領域の幅をさらに広げた翻訳実習を通して、各領域に必要な知識やスキルの習得方法について理解し、説明できる。翻訳プロジェクト管理における基本的な用語や概念を理解し、小規模の翻訳プロジェクトを管理できる。初歩的な翻訳エディティングができる。	△		◎		◎	△	○	◎
通訳翻訳実習	選択科目 専門科目	3~4	通訳翻訳クラス内で習得した知識とスキルをもとに、グループまたは個人で地域や学内における実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組み、コミュニケーションの仲介者としての役割を果たし、依頼者、ユーザー、同僚と効果的な意思疎通ができる。	△		◎		◎	△	◎	◎
通訳翻訳特論	選択科目 専門科目	1~4	通訳翻訳学の基礎を軸に、特定のトピックについて専門的に学び、説明することができる。通訳翻訳に関わる専門テーマ(例えば、日本社会におけるコミュニティ通訳の実践など)を取り上げ検証することで、それについての理解を深め、議論することができる。	○				○	◎	○	○
非言語コミュニケーション論	選択科目 専門科目	1~4	非言語コミュニケーションに関する理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。また、実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。	◎	◎	△	△	○	○	◎	○
異文化コミュニケーション特論	選択科目 専門科目	2~4	文化・人・コミュニケーションの関係性を軸に、社会的問題のみならず、常識の範囲で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をミクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ(例えば、日本社会における多文化共生の実践など)を取り上げ検証することで、異質性と向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎	△	△	○	◎	◎	◎
対人コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3~4	対人関係に密接に関わっているコミュニケーションについて、日常生活でみられる身近な現象をもとに考えることができる。自己、他者、アイデンティティ、自己開示、帰属意識、ステレオタイプなど対人コミュニケーションに関わる基礎概念を学び、友人間、家族間、世代間、異性間、医師/患者間など、様々な人間関係にコミュニケーションがどのように関与しているか理解を深め、自らの言葉で説明することができる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
集団コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3~4	集団コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、集団コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、集団内の人間関係、役割、交渉などの側面に焦点を当て、集団内及び集団間コミュニケーションの実態や問題点を自ら考え、語るようになる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
説得コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3~4	説得コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、説得コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、「コミュニケーションが社会で持つ力」や「力がコミュニケーションに与える影響」など説得をめぐる諸問題について考え、討議することで、説得コミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
グローバル社会とコミュニケーション	選択科目 専門科目	3~4	グローバル化が進む現在において私たちが直面しているコミュニケーションを巡る諸々の問題や課題を分析・討議することで、現代社会における国境を越えた交流について多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション・テクノロジーと社会	選択科目 専門科目	3~4	コミュニケーション・テクノロジーが歴史的にどのように発達し、どのような変化を社会にもたらしたのかを理論と事例研究の双方から理解し、説明することができる。また、テクノロジーが私たちのコミュニケーションのあり方に及ぼす(及ぼしうる)影響についても多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
コミュニケーション特論	選択科目 専門科目	2~4	コミュニケーションに関する特定のトピックに焦点を当て、コミュニケーション学の立場から掘り下げて考察していくことによって、地域的アイデンティティ、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなど、様々な社会文化的領域に位置づけられる現象とコミュニケーションとの関わり、特にコミュニケーションがそれらをどのように作り出しているのかについての的確に理解し表現することができる。	○	○				◎		○
グローバル文化研究特論	選択科目 専門科目	2~4	グローバル化における「文化」の機能について理解し、説明することができる。また、文化圏を超えて提供される「グローバル文化」の生成及び各地での受容とその影響について、具体例を用いて分析し、考察することができる。	○	◎		△			△	○
カルチュラル・スタディーズ特論	選択科目 専門科目	2~4	文化の国境を越えた移動によって起きる混交・流用・発明がどのような文化的多様性を生み出しているか、また文化の生成がどのように民族的・人種的・階級的アイデンティティの構築に結びついていくかを、カルチュラル・スタディーズの観点から理解し説明できるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化と思想	選択科目 専門科目	2~4	テクノロジーの発展とともにヒト、モノ、カネ、思想などが飛躍的な速度で行き交うようになったプロセスを学びながら、近代化以降の世界の実情を、その肯定的側面と否定的側面を思考する可能性を含めて、相互影響と受容の観点から多角的に考察することができる。	○			○		◎		◎
宗教と文化	選択科目 専門科目	3~4	異文化間のコミュニケーションを行うために欠かすことができない、目に見えない世界との交信、超越的な力、神(神々)の存在を含む「宗教」についてその全体像を理解し、宗教文化の意義や意味を知ることができる。	○	○				○		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
エスニシティとナショナリズム	選択科目 専門科目	2~4	近代民族国家の形成とともに時代的背景をもって生み出されたナショナリズムと、その展開に関連しつつ、社会の内外に形成された諸集団の集団的自己認識としてのエスニシティのあり方、および相互関係を学ぶことができる。そこから社会の少数者を尊重する意義を学ぶことができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
人と移動	選択科目 専門科目	2~4	国境にとらわれない前近代の時代の人の移動から、国境にとらわれざるをえない時代の移動までを視野に入れ、移動の要因がどのように生み出されてきたかを、侵略、植民地支配、内戦、紛争や様々な経済的背景に至るまで広い視野を持って知り、そこで生まれる特徴的な文化・社会の営みについて学ぶことができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
言語文化論	選択科目 専門科目	2~4	ある国や地域の人々が言葉によって培ってきた思想や文化を鑑賞・分析することによって、人間の営みの多様性を理解し、自文化を相対化する視点を獲得することができる。また、言語や文化の衝突や受容が生み出す諸問題や創造性を理解し、考察できる。	○	◎	△	◎	○	○	○	◎
グローバル化と言語	選択科目 専門科目	3~4	国家や地域、民族の文化的アイデンティティの基盤としての言語が、政治的・歴史的に構築されてきた過程について理解し、説明することができる。グローバル化に伴って変容する言語とアイデンティティ(言語権、ナショナリズムなど)の関係等、近・現代の言語・民族・国家をめぐる諸問題について、分析、考察することができる。	◎	○		◎	◎	○	○	○
多文化共生特論	選択科目 専門科目	2~4	さまざまな文化の並立する世界を認識し、文化の差異によってもたらされる現象を具体的に述べる事ができる。また、多文化的異なる文化が互いに尊重されながら共生するための方策について、客観的に論じることができる。	○	◎		◎	○	◎	○	◎
国際協力・開発学特論	選択科目 専門科目	2~4	グローバル化する現代世界が抱える戦争、貧困、環境破壊、性の格差などの諸問題に対して、国際協力や国際開発学がどのように向き合い、問題解決を図っているのか、さらには、そこには、どのような構造的課題があるのかを理解することができる。	○	○				◎	○	◎
国際協力・紛争研究特論	選択科目 専門科目	2~4	世界各地の地域紛争の具体例を学ぶことを通じ、多様かつ複雑な紛争の要因を理解することができるようになる。国際社会が地域紛争に対してどのような役割を果たし、協力ができるのかについて、考察を深める。	○	○				◎	○	○
子どもの貧困	選択科目 専門科目	1~4	世界の貧困課題のなかでも「子ども」に焦点をあて、貧困の背景や直面する課題、貧困削減に向けた取り組みについて総合的に学ぶことができる。また、子どもの権利条約やSDGsなどの国際規範のもと実践されている、子どもの権利を守り、保護する具体的な取り組みについて理解し、考察できる。	○	○				◎	○	○
国際協力とビジネス	選択科目 専門科目	1~4	国内外の課題に対するビジネスを通じた解決策の実践例を学ぶことを通じ、その可能性と限界性について議論できるようになる。ビジネスを通じた国際協力の実践例の特徴を開発学の系譜や理論に位置づけて理解できるようになる。国際協力とビジネスの関わりについて批判的な考察する力を身につけることができる。	○	○				◎	○	○
自然共生特論	選択科目 専門科目	2~4	人間を取り巻く自然環境と人間が築き上げてきた文化をめぐって関係をどのように理解すればいいのかに関して、見取り図を手に入れて、考察するための能力を身につけることができる。	○	◎						△
人間環境特論	選択科目 専門科目	2~4	人間の安全を、国家や社会との関係だけではなく、それが成り立つ自然環境を含めて理解できるようになる。個人や社会の安全を軍事や政治社会の側面からのみ捉えるのではなく、環境破壊、災害、感染症、テロなど国境を越える脅威からいかに確保できるのかについて包括的に考察することができる。	○	○				◎		○
間文化研究	選択科目 専門科目	2~4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の変容のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べる事ができる。	◎	◎		○	○	◎	○	◎
音楽学特論	選択科目 専門科目	2~4	音楽の歴史の変遷を学び、社会的・思想的・文化的関わりを具体的に考察する。音楽のしくみを根源から理解するとともに、個と全体の関係性や、普遍性と独創性のせめぎ合いについて、他分野の方法や価値観と照らしつつ理論化する。	◎	○	△	△			○	◎
視覚芸術特論	選択科目 専門科目	2~4	美術、舞台芸術、映像等の視覚に関わる幅広い芸術の諸領域を対象とする。さまざまな時代・作家・作品について、文化・社会・政治・ジェンダー等の視点から深く探究し、多様な方法論を知るとともに、自ら多角的な視覚的な芸術の分析や考察ができる。	◎	○	△	△			○	◎
英語圏文学論	選択科目 専門科目	2~4	英語圏の文学について学び、詩、小説、戯曲などに表現される人間の営みについて考えることにより、その地域への理解を深め、文学を批評的に分析し論じることができるようになる。	○	○						
グローバル研究調査法	選択科目 専門科目	2~4	グローバル文化研究、国際協力・開発学、サステナビリティ学の研究を進めるために、文化の境界を越えて行われる調査研究には何が必要であるのかという課題を含めて、調査の手法について学び、身につけることができる。	○	○				◎	◎	○
Special Topics in ICC	選択科目 専門科目	1~4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	○		◎		◎
Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	選択科目 専門科目	2~4	Students will understand and be able to explain the origins of and primary influences on modern-day TESOL contexts. Students will be able to distinguish and illustrate the differences among approaches to TESOL. Students will consolidate the course content to produce a solid belief in how to approach a TESOL classroom.	○	○		△			◎	△
Motivation in Language Learning	選択科目 専門科目	2~4	Students will understand and be able to explain the different components of motivation and explain their influence on language learning and language teaching. Further, students will be able to identify the antecedents of achievement motivation development, how they are related to a learner's choices and persistence, and the effects of parents, teachers, and peers.	◎	◎		△			◎	△
Intercultural Communication in the Language Classroom	選択科目 専門科目	2~4	Students will understand and be able to explain the incorporation of intercultural communication in a language learning classroom. Students will be able to identify the roles of the teacher, learners, and course materials regarding the incorporation of intercultural communication and the practical implications of doing so.	◎	◎		◎	○	○	◎	○
Communication and Citizenship	選択科目 専門科目	2~4	市民概念の形成、市民社会の変遷、シティズンシップ教育等におけるコミュニケーションの役割を理解し、説明することができる。コミュニケーションの理論・方法を採りながら、市民運動や市民権をめぐる論争等を多角的に分析することができるようになる。自らも一人の市民としてコミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	○	○			◎	○	◎



異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え行動することからできる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
Transcultural Cinema	選択科目 専門科目	2~4	映画とは、排他的な伝統文化や国境によって決められる民族文化とは異なるトランスカルチャー、又は芸術様式であることを理解し、様々な地域のグローバル社会において制作された映画やフィルム・プラクティスを、共存社会のための文化的実践として考察し、分析することができる。映画に再現されている文化的多様性、地域と国家を越えた普遍的価値、文化的ハイブリッドを批評的に分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎	
Contemporary Culture in Japan	選択科目 専門科目	2~4	Students will gain insight into contemporary Japan by exploring the cultural and historical context of social issues such as immigration, gender relations, work patterns, stress, declining birthrate, nuclear power, and environmentalism, as well as cultural topics such as anime, literature, fashion, cinema, and food. Through these topics students will better understand Japan's place in the world and how Japanese culture will adapt to globalization.	◎	○			◎			○	
Religion and Society in Asia	選択科目 専門科目	2~4	アジア圏において宗教がどのように諸地域の文化的慣習や人びとの日常生活と結びついているかを理解し、自らの意見を述べるができる。また、日本における様々な信仰や宗教的実践を、アジアにおける宗教文化という幅広い文脈の中で考察し、論じることができる。	○	◎	◎		○				
Japan in Asia	選択科目 専門科目	2~4	Japan's relations with its Northeast Asian neighbors have come to be defined in part by wars of historical interpretation as seen in political exchanges as well as in history textbooks, museums, and social culture. Students will be able to examine these differences in diverse contexts to gain a broader understanding of Japan's modern relations with its Asian neighbors.	○	△		◎			◎		
Ethnicity and Globalization in Japan	選択科目 専門科目	2~4	日本社会におけるグローバリゼーションと人種差別主義、そして、単一民族主義に基づく集団的アイデンティティを考察し、分析することができる。移住労働者と少数民族集団などの人種的マイリティーが日常生活に感じる疎外感と社会的孤立、主流社会による統合・差別政策、文化的共存に対し多様な立場を見せる社会集団の葛藤と社会調和を模索する過程を分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎	
Multiculturalism in Japan	選択科目 専門科目	2~4	多文化共生・多文化主義に関連する理論や概念を用いて、日本社会における多文化的状況について理解するとともに、その課題について多様な側面から考察することができるようになる。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	
Language Policy and Multilingualism	選択科目 専門科目	2~4	Students will be able to understand language situations and policies in various countries and areas in the world such as official language policy, policy towards minority and immigrants, and foreign language teaching policy. They will be able to explain these policies as well as such issues as language conflict, multilingualism, language maintenance, language rights, and endangered languages. Students will be able to deepen their knowledge and understanding of the relationship between language and society/culture.	○	○		○				◎	
Social Movements and Social Change	選択科目 専門科目	2~4	Students will be able to apply key models and theories in the study of social movements to analyze and assess the role and impact of social movements in contemporary societies. They will also develop a better understanding of the cultural and communicative dimensions of social movements.	○	○		△			◎	○	◎
Advanced Seminar: Intercultural Communication	選択科目 専門科目	3・4	基礎科目で学んだ内容を踏まえながら、異文化コミュニケーションを巡る諸問題をさらに深く掘り下げて学ぶことで、文化・人・コミュニケーションの関係性を理論的な視野と歴史的な視野の双方を立って考察することができる。	○	○					◎	◎	
Advanced Seminar: Language and Identity	選択科目 専門科目	3・4	アイデンティティ形成と言語の関係性を理解するとともに、アイデンティティが構築、表出、交渉される具体的な過程をジェンダー、セクシュアリティ、人種、民族、階級、地域性といった社会的要因と関係づけながら多面的に考察することができる。	○	○		◎				◎	
Advanced Seminar: International Cooperation	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to understand key theories and conceptual models underlying the analysis of international development and sustainability. They will also develop a better understanding of the emergence, growth, and proliferation of international organizations, the factors that have contributed to their development, and their efforts at local, regional, national, and transnational levels.	○		○				◎	◎	◎
Advanced Seminar: Gender and Communication	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to apply key concepts and theories in gender studies to everyday experiences. They will also develop a deeper understanding of the ways in which particular images of femininity and masculinity and differences between them are constructed, maintained, and challenged through one's body and communication.	○	○	○				◎	○	◎
Advanced Seminar: Globalization and Media	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to engage with various concepts and subjects concerning media theory and global cultural flows and use them to contextualize and parse contemporary global media flows. They will also develop a deeper understanding of the real, imaginary, and symbolic power dynamics that constitute their own media environments.	○		○				◎	○	◎
専門演習1	選択科目 専門演習・卒業研究	3・4	各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することができる。また、「卒業研究」の調査執筆に必要な基礎的な事項(研究方法など)を獲得することができる。	◎				○		◎	◎	
専門演習2	選択科目 専門演習・卒業研究	4	自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究文献の調査、研究方法の検討、データの収集・整理など、「卒業研究」の執筆を計画的に進めることができる。	◎				○		◎	◎	
専門演習3	選択科目 専門演習・卒業研究	4	自ら設定したテーマについて調査執筆を継続し、期限までに質・量ともに「卒業研究」に求められる基準を十分に満たした成果物を完成させることができる。	◎				○		◎	◎	
卒業研究	選択科目 専門演習・卒業研究	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」の中から各自が選択した卒業研究を完成させることができる。	◎				○		◎	◎	
卒業課題A	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎				○		◎	◎	
卒業課題B	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバル研究」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎				○		◎	◎	
ベーシックセミナーA Basic Seminar A	自由科目	1・2	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を身につけ、論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△				○	

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
ベーシックセミナーB Basic Seminar B	自由科目	2	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる文献読解力、リサーチスキル、批判的思考力を深化させ、データや論拠を用いながら自らの論を展開したレポートを作成することができる。また、他者と共に調べ、話し合い、学ぶことにより学びの対象への理解を深めるとともに、その成果を論理的かつ効果的に発表することができる。	◎	◎		△					○
Humanities Study1	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Study2	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Study3	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Study4	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Study5	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Study6	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、文献資料の読解に基づいて理解を深めるとともに、必要となる研究方法及び研究態度について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Lecture1	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、講義および指定された学習課題を通じて理解を深めるとともに、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Humanities Lecture2	選択科目 PEACE選択科目	2~4	人文学に含まれる諸テーマについて、講義および指定された学習課題を通じて理解を深めるとともに、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Japanese Economy1	選択科目 PEACE選択科目	1~4	関連する理論、概念、用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	○	○							○
Japanese Economy2	選択科目 PEACE選択科目	1~4	関連する理論、概念、用語の検討を通して、主要な日本経済の事象を理解できるようになる。	○	○							○
Japanese Management1	選択科目 PEACE選択科目	1~4	Students will be able to understand the main features of business management, including those specific to Japanese businesses. They will also be able to identify key decisions made by corporate managers, understand the background of these, and evaluate their strategies.	○	○							○
Japanese Management2	選択科目 PEACE選択科目	1~4	Students will be able to understand the main features of business management, including those specific to Japanese businesses. They will also be able to identify key decisions made by corporate managers, understand the background of these, and evaluate their strategies.	○	○							○
Japanese Economic History 1	選択科目 PEACE選択科目	1~4	近世日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	○	○							○
Japanese Economic History 2	選択科目 PEACE選択科目	1~4	近代以降の日本史上の経済的事件と現代の日本経済・社会への影響について理解できるようになる。	○	○							○
Accounting (Introductory) 1	選択科目 PEACE選択科目	2~4	企業における会計の役割を理解するとともに、企業会計実務に関する基礎的な知識を身につけることができる。	○	○							○
Accounting (Introductory) 2	選択科目 PEACE選択科目	2~4	企業における会計の役割を理解するとともに、企業会計実務に関する基礎的な知識を身につけることができる。	○	○							○
Finance (Introductory) 1	選択科目 PEACE選択科目	2~4	財政学の基礎を学ぶことを通じて、現代財政システムの特徴や課題を理解できるようになる。	○	○							○
Finance (Introductory) 2	選択科目 PEACE選択科目	2~4	財政学の基礎を学ぶことを通じて、現代財政システムの特徴や課題を理解できるようになる。	○	○							○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とのよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
Sociological Studies A	選択科目 PEACE選択科目	2~4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Sociological Studies B	選択科目 PEACE選択科目	2~4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Sociological Studies C	選択科目 PEACE選択科目	2~4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Sociological Studies D	選択科目 PEACE選択科目	2~4	現代社会および社会学理論の最前線のトピックを学び、現代社会に対する考察を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Sociology of Gender A	選択科目 PEACE選択科目	1~4	ジェンダー理論を学ぶことで、公私の領域における男女間の不平等や役割分担の固定化について批判的に考える力を養うことができる。	○	○							○
Cultural Anthropology A	選択科目 PEACE選択科目	1~4	文化人類学の基礎的理論を学習することで、多様な地域における習慣や儀礼、社会組織のあり方についてグローバルな視点から考える力を養うことができる。	○	○		△		○	○		◎
Torts	選択科目 PEACE選択科目	3・4	By learning the basics of Japanese tort law from a comparative perspective (with a particular emphasis on the United States, England, France, and Germany), students will be able to develop a better understanding of the nature and functions of tort law and apply the law to analyze legal problems.	○	○							○
Comparative Family Law	選択科目 PEACE選択科目	3・4	By learning the basics of Japanese family law from a comparative perspective, students will be able to develop a better understanding of the diverse and changing conceptions of "family," "marriage," and other related concepts.	○	○							○
Introduction to Legal Studies A	選択科目 PEACE選択科目	3・4	法学諸分野の基本的な知識を身につけ、具体的な社会問題や課題を法学の観点から考えることができる。	○	○							○
Introduction to Legal Studies B	選択科目 PEACE選択科目	3・4	法学諸分野の基本的な知識を身につけ、具体的な社会問題や課題を法学の観点から考えることができる。	○	○							○
Contract A	選択科目 PEACE選択科目		By acquiring a basic knowledge of Japanese contract law, students will be able to observe their everyday life through a legal lens, make a better value judgment, and develop their logical thinking skills.	○	○							○
Contract B	選択科目 PEACE選択科目		By acquiring a basic knowledge of Japanese contract law, students will be able to observe their daily life through a legal lens, make a better value judgment, and develop their logical thinking skills.	○	○							○
Comparative Constitutional Law	選択科目 PEACE選択科目		By learning the major components of Japanese Constitution and its interrelationships with Japanese society through various case studies, students will be able to consider the roles of constitutional law and the legal justice system in resolving conflicts that arise in the society.	○	○							○
Criminal Procedure	選択科目 PEACE選択科目		刑事訴訟法に関する文献講読や講義を通して、刑事手続きに関する原理や規則に関する基礎的な知識を身につけることができる。	○	○							○
Financial Statement Analysis	選択科目 PEACE選択科目	3~4	Students will be able to read and analyze annual reports and detailed financial statements.	○	○							○
Tourism Study 1 (Business)	選択科目 PEACE選択科目	2	英語で世界の観光事情(ビジネス)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Tourism Study 2 (Society)	選択科目 PEACE選択科目	2	英語で世界の観光事情(社会)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○				△			○
Tourism Study 3 (Destination)	選択科目 PEACE選択科目	3	英語で世界の観光事情(観光地)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Tourism Study 4 (Culture)	選択科目 PEACE選択科目	3	英語で世界の観光事情(文化)およびグローバルな観光の展開に関する知識を習得し、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
Global Society and Local Communities	選択科目 PEACE選択科目		By examining the impact of globalization on communities around the world from political, economic, and social perspectives, students will be able to better understand the relationship between global conditions and changes and various problems in local communities.	○	○							○
Specialized Psychology Lecture	選択科目 PEACE選択科目	2~4	英語を使用言語として、基礎心理学、応用心理学、臨床心理学の領域の特色ある研究内容に触れ、多角的な視点から心理学への理解を深め、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○							○
Cultural Psychology	選択科目 PEACE選択科目	2~4	ヒトが自然環境や社会的環境の中で築いてきた文化的な仕組み、枠組に関する歴史的側面や多様性について学び、自らの調査や研究に応用することができる。	○	○		△			△		○